

受講者の特性に対応した
教育訓練手法の構築・普及促進事業

「メタバースを活用した最新情報技術・スキル
(メタバース、AI、ドローン)習得プログラム
の開発」

～「次世代 IT 技術マスター講座」第 2 期～

株式会社フォーラムエイト
令和 7 年 3 月 31 日

目次

第1章 背景と目的.....	2
1-1 課題など	2
1-2 既存の訓練との違い・新規性	2
1-2-1 訓練パッケージの特長.....	2
1-2-2 訓練パッケージの全体構成.....	3
第2章 取組内容と結果.....	5
2-1 募集.....	5
2-1-1 募集方法.....	5
2-1-2 募集結果.....	8
2-1-3 選考方法.....	8
2-1-4 選考結果.....	8
2-1-5 工夫点	8
2-2 訓練.....	9
2-2-1 訓練方法 ～メタバースの活用～	9
2-2-2 訓練結果.....	12
2-2-3 工夫点	17
2-3 就職支援	18
2-3-1 支援方法.....	18
2-3-2 支援結果.....	24
2-3-3 工夫点	24
第3章 訓練実施に係る費用.....	27
3-1 募集・就職支援	27
3-2 訓練.....	27
第4章 試行の総評	28
4-1 目標達成状況.....	28
4-2 試行結果から見る今後の課題と改善策.....	29
第5章 普及策の検討.....	31

第1章 背景と目的

1-1 課題など

本事業では、安定した就労環境への定着が難しい様々な特性や背景を持つ「非正規労働者」を受講者として想定し、メタバース、AI、IoT(ドローン)といった、新しく、人材需要に対してまだ就労者の参入が比較的少ない分野の情報技術や、IT リテラシー、最先端のコミュニケーションツールを使いこなすノウハウの習得を通して、競争力を高めることを目指す教育訓練パッケージを提供し、就労支援を行うことを目的として実施する。

受講の対象者としては、育児、身体的・精神的な制約など、正社員への定着が難しい背景を持つ人や、仕事・社会参加への意欲が低い層が含まれることも想定する。また、これらの層には、ビジネスやコミュニケーションのスキルが十分に習得できておらず、キャリアアップが困難な者も含まれている点を考慮する。

1-2 既存の訓練との違い・新規性

1-2-1 訓練パッケージの特長

本講座で提供する訓練パッケージは、「メタバース」「AI」「ドローン」の3分野を中心として、IT人材としての競争力となり得る最新情報技術の基本と実践的な知識・スキルの体系を習得可能なプログラム、「次世代IT技術マスター講座」として構築する。

また、想定した受講者層においては、対面コミュニケーションや社会参加が環境的に難しい、または、不得手としていることが、不安定な就労経験につながっている場合も多いと考えられることから、遠隔での講義・実習を実施する教育訓練手法が有効であると考え、採用している。講座修了後の仕上がり像としては、次世代の中心技術の知識習得、コミュニケーションスキル獲得、正規雇用・社会参加への意欲向上を想定している。

講義および実習提供のプラットフォームおよびコミュニケーションツールとしては、メタバースを活用(教育訓練用WebVRプラットフォームとして開発・提供を行う)。また、座学に加えてソフトウェアの操作実習や、次世代技術として関心の高いドローン実習プログラムも含める。

既存の訓練プログラム等との違いや新規性は、以下のとおりである。

(1)「メタバース×AI×ドローン」の掛け合わせによる応用性の高いカリキュラムを提供

本教育訓練プログラムでは、メタバース・クラウド・AIといった最新情報技術の分野に加えて、ドローンを扱う。ソフトウェアとハードウェアというITの基本を網羅した内容とすることで、IoT(Internet of Things)など幅広い応用にも対応した実践的な人材育成に対応している。

(2)「資格取得を視野に入れたドローン実習の開発」

認定・資格取得に向けた準備としても活用できる内容とし、実習を含めた講座を用意する。

受講のメリット

未経験者でもITの基礎から最新情報まで学べる

メタバース、クラウド（ソフトウェア）とドローン（ハードウェア）の両面から学べる

ドローン実習後の飛行証明書発行で、資格取得時の実地試験が免除できる

講座の特長

・メタバースを活用し受講環境に配慮した学習プログラム
・カリキュラム修了サポート

・キャリアパス支援
・メタバースを用いた学習プログラム

・受講者サポートチームがカリキュラムの修了を支援

概要

受講対象者

・最先端の情報技術について学びたい方
・正規雇用での就職を目指し実践的な経験・スキルを積みたい方
※本講座は、無職および非正規雇用の状態にある方を対象としています。現在、正社員・正規雇用の方はお申込みいただけません。
※正規雇用への意志がある人のみ対象

受講にあたっての必要スキル

基本的なパソコン操作ができること
(キーボードでのタイピング、ソフトウェアのインストールなど)

受講料

本講座は、厚労省による普及促進事業のため、受講料は発生しません
(会場までの交通費等は、受講者の負担となります)

会場:ハイブリッド形式

(ドローン実習のみ対面)

申込受付期間・定員・申込方法

2024年4月1日(月)～5月17日(金)
定員:30名
※定員に達し次第、募集を終了いたします

スケジュール

第2期 2024年6月～11月 (120時間)

シラバス構成

6月:オリエンテーション

本プログラムによって得られる知識・技術の性質や位置づけを体系的に整理し、実際のビジネスや社会においてどのように役立てられるかについて理解する。

6～7月:基礎編

「メタバース」「AI」「ドローン」各分野の概要・基本的な知識を習得する。

8～10月:実習編

ソフトウェア実習、ドローンを活用した操作実習などを通じて、実践的な技能を身に付ける。

11月:応用編

ドローン×メタバース、AI×VRなど、基礎編・実習編で習得した知識・技能を組み合わせ、より実践的な応用を目指す演習を実施する。

● メタバース	メタバースの基本・最新動向からビジネス活用までを学ぶ	● AI	AIの基礎からデータ分析・情報の可視化など幅広く学習
● 3DVR・CGモデリング	メタバース空間の作成に必要なソフトウェアの操作実習	● プログラミング	ソフトウェアの拡張・カスタマイズ/クラウドおよびAIで使われるプログラミング言語学習
● クラウド	クラウドの基礎から実際の活用事例まで網羅的に学習	● ドローン	ドローンに関する知識の習得・実技実習による操作技術習得
● 応用編	基礎編・実習編の習得内容を組み合わせた実習的な演習 最新技術を活用したユースケース、産学官の連携事例/メタバースとドローンの連携実習/AIとVR 等		

次世代 IT 技術マスター講座 第2期「カリキュラム詳細

(3)講義および実習提供のプラットフォームとしてメタバースを活用

講義は実地での操縦が含まれる「ドローン実習」の講座を除き、すべての講座をオンラインで開催し、適宜メタバースを活用。就業フォローに関してもメタバースによる事務局を設置して受講者への利用を促した。受講および、講師や参加者とのやり取りを通して、メタバースの特徴やメリットが体感でき、IT を活用した効果的なコミュニケーションの手法を身に付けられることから、ビジネスコミュニケーションにおける苦手意識やスキル不足が改善し、就労・社会参加への自信と意欲にもつながることが考えられる。

1-2-2 訓練パッケージの全体構成

ここで、第2期において提供した講座形式の全体構成を以下に示す。

全 183 時間の 40 講座を「選択講座」と「必修講座」によって構成し、修了に必要な履修要件は必修(7 講座 34 時間)＋選択で 120 時間以上とした。

加えて、リアルタイムで参加できない場合であっても、現地実習のドローン講座を除くすべての講座についてオンデマンド教材(講義資料と動画を視聴することによる e ラーニング形式)を提供し、これを自己学習してレポート提出することで履修可能とした。

	プログラムの総時間数:186 時間(40 講座) ※修了に必要な履修要件は必修＋選択で 120 時間以上	
必修／選択 内訳	必修科目	選択科目
	34 時間(7 講座)	152 時間(33 講座)
対面／遠隔 内訳	対面授業	オンライン授業 (オンデマンド可)
	12 時間(3 講座)	174 時間(37 講座)

第2章 取組内容と結果

本事業の教育訓練パッケージは全 2 回の試行とし、以下の通りのスケジュールとしている。本報告書の当該期間は令和 6 年 4 月～令和 6 年 11 月の「第 1 回試行」の実施をふまえた改善を行った、「第 2 回試行」についての報告である。

【第 1 回試行】:「次世代 IT 技術マスター講座 第 1 期」令和 5 年 12 月～令和 6 年 3 月

訓練パッケージから抜粋して試行し、教育訓練の内容、講義の実施方法(オンライン、メタバース、オンデマンド等)および、受講者サポート体制の効果測定を実施。

【第 2 回試行】:「次世代 IT 技術マスター講座 第 2 期」令和 6 年 4 月～令和 6 年 11 月

訓練パッケージ全ての過程を試行。4 月から募集を開始し、6 月から 11 月までの期間に教育訓練パッケージを開講する。試行期間 1 での実施結果を分析した上で、改善点を検討し、カリキュラム・訓練手法、受講者サポート方法、普及・促進方法の見直しや再開発を実施。

2-1 募集

開発した教育訓練パッケージの広報・周知方法としては、検討委員会構成団体および関連の業界団体を中心として普及活動を行った。

2-1-1 募集方法

想定する受講者数は約 30 名に設定。内容としては、次世代技術であり世間一般での話題性も大きい「メタバース」や「ドローン」を用いた教育訓練である点をアピールして興味・関心を集め、広く受講者を募ることを意識して PR 活動を行うことで、従来の教育訓練には関心の持てなかった層にも広く訴求しより一層の普及・促進を狙った。

具体的には、HP の募集要項および、リーフレット、DM メール、当社広報誌掲載記事、SNS 広告を作成し、当社ユーザ(約 13 万社)を中心に広報・告知を実施し、さらに、検討委員会構成団体、その他業界団体等を通して紹介を行った。

受講者募集は 2024 年 4 月 1 日～5 月 17 日にかけて行った。

(1) HP・メールによる告知

募集要項をフォーラムエイトの HP にて公開し、ユーザ・関係先約 17,000 件に告知メールを配信した。第 2 期募集要項 HP: <https://www.forum8.co.jp/forum8/it-seminar.htm>

メールニュースによる DM 配信の結果

送信日	送信件数	開封件数	クリック数
2024 年 4 月 11 日	16,662	4,372	1,997

(2) 広報誌を通した周知

フォーラムエイト広報誌(2024 年 4 月 1 日発行)に第 2 期募集要項を掲載し、ユーザや取引先を中心に 18,000 件の DM 発送を実施した。

また、本事業の人材育成への取り組みをより広範囲に周知し、普及活動につなげることを目的として、同じく 2024 年 7 月 1 日発行の広報誌において紹介記事を作成・掲載。第 1 期のフォローアップ状況と併せて、第 2 期の内容や実施状況を報告・紹介した。

【フォーラムエイト広報誌 Up & Coming146 号(2024 年 7 月 1 日発行)】

令和 5 年度厚生労働省 教育訓練事業採択 次世代 IT 技術マスター講座レポート:

<https://www.forum8.co.jp/topic/it-master146.htm>

(3) SNS への広告掲載

各種 SNS でのオンライン広告を配信し、不特定多数の層にも教育訓練パッケージの周知を行った。実施内容および結果は以下のとおりである。



【SNS 広告 (Facebook・Instagram・X)】

配信期間: 2024 年 4 月 15 日～5 月 17 日 (32 日間) ※第1期は 21 日間

オーディエンス設定: 地域: 日本、年齢: 25 歳～64 歳、性別: すべて

表示場所: 各媒体のアプリやサイト上のフィード・ストーリーズ・タイムライン等。

第 2 期広報における Facebook、Instagram の各広告では、全業界の平均的なクリック率および近似する分野でのクリック率を標準として比較すると、いずれも大きく回っている。X については、第 2 期ではクリック率は第 1 期よりもやや低下したが、インプレッション数とクリック数は増加しており、広く周知する効果があったと考えられる。

項目	Facebook	Instagram	X
インプレッション数	27,743(第 1 期: 9,657)	39,664(第 1 期: 24,725)	130,467(第 1 期: 64,906)
クリック数	306(第 1 期: 173)	1,113(第 1 期: 769)	1,396(第 1 期: 1144)
クリック率	1.10%(第 1 期: 1.79%) ※参考(標準的な数値): 「全業界」0.89% ／「仕事と教育」0.55%	2.81%(第 1 期: 3.11%) ※参考(標準的な数値): 「全業界」1.5%／「通販・E コマース」1.5～2%／「システム・テクノロジー」0.3～0.5%	1.07%(第 1 期: 1.76%) ※参考(標準的な数値): 「全業界」1.5%／「サービス業」1.0～2.0%

(4) イベント・セミナー等での紹介

2024 年 3 月 15 日に豊田市で開催された「豊田市×フォーラムエイト連携協定締結 1 周年記念 持続可能な都市の実現に向けたデジタルツインセミナー」(当社共催、<https://www.forum8.co.jp/fair/report/202407-03.htm>)において、同市の産業振興課や、働き方のワークダイバーシティ・就労支援に関わっている関連団体に、教育訓練パッケージについて説明・紹介を行った。

2-1-2 募集結果

想定受講者数 30 名に対し、第 2 期は 48 名の応募があった。第 1 期の 55 名よりやや少ない理由として、第 2 期は約半年間で 120 時間の履修と、第 1 期の約 2 倍の期間・ボリュームであり、学習意欲が大きい申込者に絞られたためであると考えられる。

2-1-3 選考方法

選考にあたっては、応募時点で非正規雇用または無職であるか、半年間の継続的な受講が可能かといった点と、就業意欲を明確に持っているかといった点を基準として、電話・メールでの連絡により確認し、該当者を選考した。

2-1-4 選考結果

48 名の応募の中から、前述の選考基準の説明を経て 2 名の辞退があり、さらに、就業意欲の有無を確認した結果、3 名を選考外として、合計 43 名にて講座をスタートした。

講座受講の応募情報にどのような経路でアクセスしたかについては、受講者への聞き取りを行ったところ、以下のような回答が得られた。

【講座の応募情報へのアクセス経路】

- ・転職情報サイトの閲覧時に厚生労働省提供の教育訓練に関する情報ページを見つけ、氷河期世代向けや IT スキル学習などの情報にアクセスし、募集 HP にたどりついた
- ・就職情報をインターネット検索している際にオンライン広告を見て募集 HP にアクセス。
- ・Facebook の SNS 広告経由
- ・Google で「IT、研修」などのキーワードで検索した際に募集 HP にたどりついた

上記より、就業への意志を持った受講者が、自主的に検索して情報ページにアクセスを行ったり、それによって表示される SNS 広告に接触しているというケースが多かったことが考えられる。

2-1-5 工夫点

第 1 期では、すでに就業中であるの場合や、就業の意志が全くない受講者も見受けられたため、第 2 期では、募集時点で「非正規雇用(無職)」および、「就職の意志がある者」のみ対象としてい

ることを強調し、HP の申込フォームにおいてもそれらの項目のチェック欄を用意するなど、講座の目標にマッチした受講者を集めるための工夫を行った。

また、第1期では途中離脱者が発生したため、第2期では新たに募集時の選考を実施し、継続的に受講が可能である応募者のみを選考した。

募集時の周知に関しては、募集期間を長くし、また、SNS 広告の掲載期間と予算を拡大することで、露出を増やすことを図った。

2-2 訓練

2-2-1 訓練方法 ～メタバースの活用～

開発する訓練手法は、受託者であるフォーラムエイトが持つ、情報技術や IT 人材育成に関わる実績・知見を活かした講義に加えて、IT 各分野の専門的知見を持つ検討委員による講義も実施する。講座は座学・演習(オンライン／オンデマンド)、現地実習(ドローン分野のみ)で構成し、対象分野には、メタバース、AI、ドローンに加えて、クラウド、3DVR/CG モデリング、プログラミングを含める。

(1)訓練手法の特長

応用性の高い内容：

開発する訓練パッケージは、メタバース、AI、ドローンを掛け合わせて、情報技術の基本であるソフトウェアとハードウェアの双方を網羅することで、IoT (Internet of Things) など幅広い応用にも対応した実践的で応用性の高いカリキュラムとする。これにより、IT 業界をはじめとして、IT を活用した様々な業界で習得内容を生かせるという点で、既存の訓練プログラムとの差別化を図っている。



資格取得に役立つ内容：

ドローン分野は、民間技能証明の取得に向けて必要となるドローン操縦時間としても登録可能な実習とし、就業に結びつく資格取得も視野に入れた内容とする。

オンデマンド受講形式の提供：

オンライン開催講座にリアルタイムで参加できない場合であっても、講義資料と動画を視聴することで e ラーニングが可能なオンデマンド教材を提供し、できるだけ受講者が受講しやすい環境を用意した。

(2)メタバースの活用

本講座の訓練手法のひとつである「メタバース」について、概要と機能、期待される効果を説明する。

【メタバースの概要】

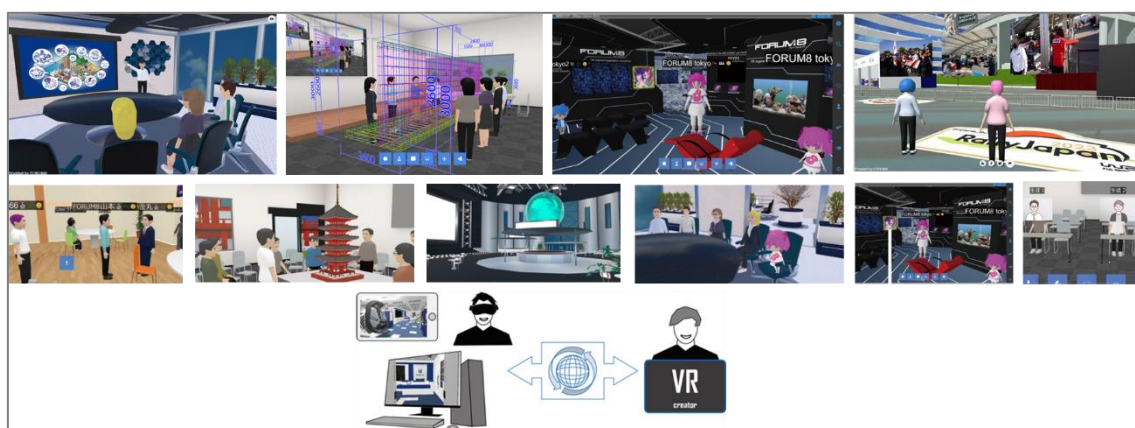
メタバースとは、インターネット上に作られた 3 次元の仮想空間を指し、一般的に、自分自身の分身である仮想空間内のキャラクター「アバター」を操作し、利用者がバーチャルな空間内で、高い没入感を伴ったリアルタイムの相互のコミュニケーションを行ったり、各種サービスを利用することが可能な技術である。

オンラインで場所を問わず講義に参加しやすく、また、AR、MR などの技術や様々なデバイスと連携することで臨場感を高められることから、理解度や学習意欲の向上、学習効率のアップにもつながることが期待されている。

本講座でメタバースを活用することの意義としては、アバターによるメタバースにより、コミュニケーションを苦手としているひきこもりの方や、企業での就業に対して消極的な層も、積極的に参加しやすいことが考えられる。3D 空間による講義の高い臨場感により、学習内容の理解度および訓練の定着度の向上が見込まれる。

【使用メタバースのツール】

今回使用するメタバースは、当社が自社開発したソフトウェア製品「メタバニア F8VPS」であり、3DVR で構築された空間とアバターを介したコミュニケーションツールを用いて、テレワーク推進、バーチャルショールームや工場見学、作業訓練や業務管理などで活用されている。WebVR プラットフォームとして、目的・用途に応じて空間そのものを一から自由に作成・編集することも、既存の 3DVR データを最適化して編集し活用することも可能である。



複数人での空間共有やアバターによる会話・チャット、ビデオ通話・画面共有・共有ボードなどの会議室機能により、現実と同様のコミュニケーションをサポートする他、Web アプリとして一般的な Web ブラウザで動作するため、特定のアプリをインストールすることなく、デバイスや OS を選ばずに利用でき、広く受講者を募る教育訓練プログラムでの利用に適しているといえる。

教育分野ではこれまで、自治体における小学生の社会学習向けのコンテンツや、大学教育・生涯学習用のプラットフォームとしても活用された実績がある。



本講座では、オンラインの講義および実習提供に加えて、就業支援にもこのメタバースを活用する。受講および講師や参加者とのやり取りを通して、メタバースの特徴やメリットを体感し、IT を活用した効果的なコミュニケーションの手法を身に付けられることから、ビジネスコミュニケーションにおける苦手意識やスキル不足が改善し、就労・社会参加への自信と意欲へとつながることが期待される。

(3) 訓練の実施スケジュール

第 2 期は「【別添資料】実施講座一覧」にある通りのスケジュールで実施を行った。講座修了後の認定試験は、11 月 29 日から 12 月 12 日までの期間に各受講者がオンラインで受験を行う予定となっている(シラバスは「別添資料 1」に記載)。

(4)到達目標および修了条件

本教育訓練パッケージの到達目標および修了要件については、以下の通り設定している。

【目標・到達レベル】

①就労のためのスキル獲得(到達レベル)

- ・メタバースの活用法、応用の可能性を知る(IT パスポート試験、マルチメディア検定ベーシック相当)
- ・3DVR・CG モデリングの基礎知識、基礎技術の習得(CG クリエイター検定ベーシック相当)
- ・AI およびクラウドに関する知識を得る(IT パスポート試験、マルチメディア検定ベーシック相当)
- ・プログラミングの基礎知識、基礎技術の習得
- ・ドローンに関する知識、最新情報の入手、操縦技術の習得

②就労意欲の向上、さらなる自己学習・自己研鑽の促進

- ・メタバースを通じたコミュニケーションを経験することで、社会参加の第一歩を踏み出す
- ・課題解決のために最新技術が役立つと体感することで、知識のアップデート継続を促す
- ・IT 技術のスキルを身に付けることで、IT 系企業への正規雇用および、フリーランスとしての在宅での IT 業務受託を目指す。社会貢献を実感し責任感を持って業務に従事する。

③修了要件

下記の 1、2 より判断し、修了の可否を決定する。

1. 講義履修率:規定の全 120 時間中 70%(84 時間)以上(オンデマンド受講による課題提出も履修に含む)
2. 認定試験:得点率 8 割以上を合格ラインとする(学習した基本事項が習得できているかを確認することを目的として、Moodle による多肢選択肢回答方式のオンラインテストを実施。自動採点により評価を行う。8 割未満の場合は試験内容復習とレポート提出により合格とする)。

2-2-2 訓練結果

(1)教育訓練講座の実施内容

アンケートや講義出席状況から読み取れる傾向として、ドローン、メタバースや NFT などの新しい技術への興味関心が高く、特にドローンについては受講者が 29 名となった。

最初のアンケートなどでは難しいという印象を持つ人が多かったプログラミング関連講座の受講人数が比較的多く、もともとプログラミングをかじった経験がある人だけでなく、今後本格的に学習したいという意欲を持った受講者が目立った。

また、同じ内容のセミナーを期間中に複数回実施しているが、一度受講したセミナーを自主的に再受講する(この場合は、2 回目以降は修了要件の 120 時間には含めない)ことで、前回は追いつかなかったところの復習になったという意見もあり、効果的であることが分かった。

ソフトウェアを動かしたりプログラムを組むといった実習系の講座によかったという意見が多く、実際に自分で体験してみることで、自信が深まったり、興味関心が生まれていることが分かった。

講座の期間が進むにつれて、受講者・課題提出者の数が少しずつ減っていく傾向が見受けられたため、電話やメール、メタバースによるフォローアップを強化することで、継続を促した。

第 2 期の講座について、必修講座および、第 1 期をふまえて新たに開発した講座を中心に、実施した講義の内容を「【別添資料 2】実施講座一覧」にまとめた。

(2) 講座におけるメタバース使用の効果

オンラインで実施した講座について、適宜メタバースを活用した際の感想を受講者にヒアリングした結果、以下の通りであった。本講座では、なるべく多くの受講者が参加しやすいようにドローン実習を除くすべての講座をオンラインで実施したため、講師からは、受講者の顔が見えないため理解がされているかどうかわかりづらい部分があるといった意見もみられたが、メタバースの活用場面を増やすことで、遠隔でのコミュニケーションの内容をより充実・強化し、学習内容の理解を深めることができると考えられる。

・リアルなオフィスや学校環境をバーチャルに再現し、テレワークや遠隔授業を効果的にサポートしてくれると感じた。

・メタバース内での動きやアバターで直感的にやり取りができる。

・コミュニケーションツールとしてもプレゼンテーションツールとしても、視聴覚的にわかりやすく表現できる技術だと感じた。

・チャットや音声でのコミュニケーションで参加者とのインタラクションが促進されるのは面白い。

(3) 受講結果

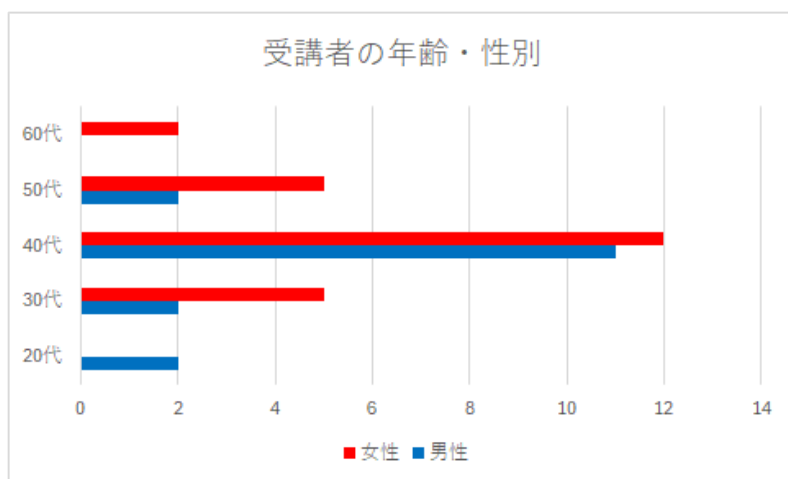
【受講者の属性】

第2期の講座実施をすべて完了した時点での、受講者の属性について以下の通りまとめた。実際に受講した 41 名(応募者 43 名のうち 2 名は途中で離脱)のうち、男女比では女性がやや多く、年齢的には男女ともに 40 代が最も多くを占めた。

また、受講者の居住地域は、関東・関西圏が約半数を占めており、地方都市の居住者も西日本を中心に約半数となっている。オンラインやオンデマンドでの受講形式であることから、各地からの参加者を募ることができたと考えられる。

受講者の属性・概要(全 41 名)

年齢分布	10代:0名 20代:2名 30代:7名 40代:23名 50代:7名 60代:2名
男女比	女性 24:男性 17
居住地域	関東:茨城県 1/埼玉県 1/千葉県 1/東京都 10/神奈川県 4 近畿:三重県 1/滋賀県 1/大阪府 1/兵庫県 2/奈良県 1 その他:石川県 2/愛知県 3/岡山県 1/山口県 1/福岡県 4



【受講時間・履修状況】

本講座では 120 時間(必修 34 時間+選択 86 時間以上)を規定の履修時間とし、うち 70%(84 時間)以上受講を修了認定ラインとして設定している。

全講座終了時点での履修状況は以下の通りとなった(なお、選択科目を自主的に、最低条件の 86 時間以上受講している受講者は、合計履修時間が 120 時間を超えている。また、同一内容の講座の再受講やオンデマンドによる繰り返しの受講は、履修時間としてカウントしていない)。

最終的に過半数 28 名が修了認定に該当しているが、残りの 13 名については未修了となった。

■修了者:28 名(男性 12 名/女性 16 名、平均年齢:43 歳)

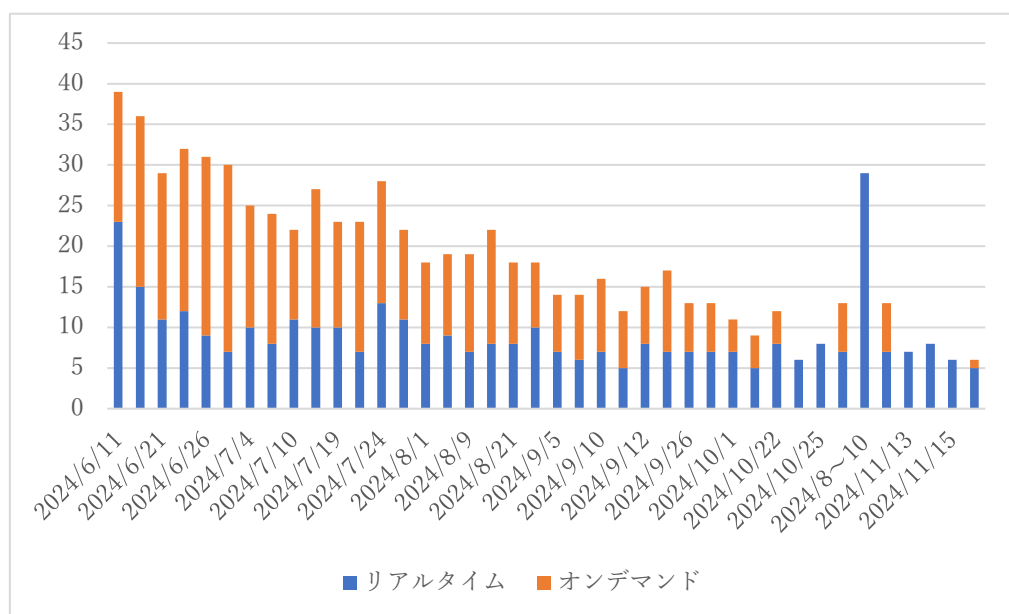
■未修了者:13 名(男性 4 名/女性 9 名、平均年齢:46 歳)

受講者(全 41 名)の履修時間

120 時間以上(100%)	26 名 (女性 14 名、男性 12 名)
84 時間以上(70%)	5 名

※修了認定ライン(120 時間中 84 時間: 70%以上)	(女性 5 名)
60 時間未満(50%未満)	10 名 (女性 6 名、男性 4 名)

講座はリアルタイム受講／オンデマンドで後日受講の両方の形式で実施しており、オンデマンド受講の場合は課題提出をもって受講完了と認めている。下のグラフの通り、ほとんどの講座で半数以上がオンデマンドにより受講されており、リアルタイムで都合がつかない場合などの受講手段として有効活用され、受講率の向上に役立っていることが考えられる。



なお、講座の後半の日程で受講者数が減少しているのは、規定の履修要件の合計時間に達している受講者がいるためである。

(4) 受講者の学習内容理解度の指標について

【座学講座に付属した試験の結果】

座学の講座に達成度を測る試験が付属している「表現技術検定」と「VR 系セミナー」に関して、受験結果の状況を以下にまとめた。本講座「次世代 IT 技術マスター」以外の一般受講者もいるため、テスト結果を以下に比較している。次世代 IT 技術マスター受講者は、表技協検定に関しては 8 割以上の得点、VR エンジニア認定試験についても、合格ラインとなる 7 割以上の得点者が大半を占めており、理解度が十分に達成されていると考えられる。

UC-win/Road・VRセミナー VRエンジニア認定試験（9/4、10/8実施）

	次世代IT技術マスター受講者	一般受講者
受験人数合計	8	11
最高点	90.9	85.9
最低点	40.7	22.4
平均点	76.8	63.9
合格者数	7	7

※合格点ライン70/100点

表現技術検定								
講座名	次世代IT技術マスター受講者				一般受講者			
	受験人数	最高点	最低点	平均点	受験人数	最高点	最低点	平均点
まちづくり入門 2024/9/1	7	38/40	36/40	36.6/40	3	36/40	33/40	34.3/40
情報処理・データベース 2024/9/18	6	40/40	22/40	34.3/40	-	-	-	-
クラウドAI 2024/10/31	16	53/60	42/60	47.2/60	5	56/60	40/60	48.0/60
XRメタバース 2024/10/31	15	100/100	80/100	90.7/100	10	100/100	84/100	93.6/100
まちづくり入門編 2024/10/31	13	38/40	18/40	33.4/40	3	36/40	33/40	34.3/40
情報処理／データベース 2024/10/31	13	40/40	22/40	34.9/40	-	-	-	-

【講座全体の修了認定試験の結果】

第2期教育訓練パッケージの修了要件は、120時間中7割の受講かつ、11月29日に実施した認定試験の150点中40点（8割正答）を基準としている。なお、1回目の受験で基準に届かない場合は、事務局より働きかけて復習を促し、試験内容に関する補習レポート提出をもって、修了とみなしている。最終的に、受講者41名中29名が受験し、うち28名が要件を満たしての修了となり、認定証を発行している。

■得点率8割以上:19名

平均年齢:42歳（男性8名／女性11名）

地域:東京3名、神奈川2名、兵庫2名、

愛知2名、その他10名

70%（84時間以上）:19名

■得点率8割以下 10名

※9名がレポート提出により受験済、うち9名が120時間以上履修済みで修了認定。

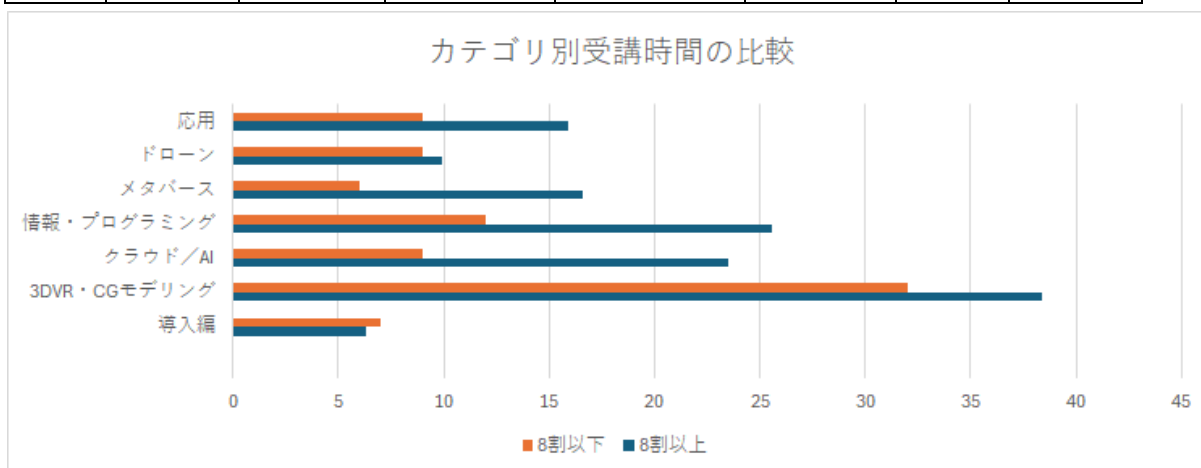
平均年齢:47歳（男性4名／女性6名）

地域:東京3名、その他7名

70%（84時間以上）:10名

修了認定試験の得点率

得点率	カテゴリ別の受講時間						
	導入編	3DVR・CG モデリング	クラウド／AI	情報・ プログラミング	メタバース	ドローン	応用
8割以上	6.3	38.4	23.5	25.6	16.6	9.9	15.9
8割以下	7.0	32.0	9.0	12.0	6.0	9.0	9.0



2-2-3 工夫点

(1) 講座内容についての工夫・改善

第1期の試行で受講者より好評であったため、引き続き、リアルタイムで非対面のオンラインおよび、リアルタイム受講できない場合はオンデマンド(後日eラーニング形式で受講)で講座を実施した。一方、第1期からの改善点として、興味関心や受講者自身のレベルに合わせて履修できるように、合計120時間のうち、必修科目は7講座(34時間)のみとし、残った時間は希望科目の選択制として受講これにより、受講者がより主体的に学習を継続できていると考えられる。

また、第1期の感触として、受講者のITリテラシーや知識レベルの差が大きかったことから、特に初級者向けの受講者への対応として、開講前に、パソコンやソフトウェアのセッティングを実施する準備講座を設けた(「【別添資料2】実施講座一覧」の「2024年6月21日(金)【導入編】準備講座」)。これにより、実際に講座が始まってからつまづいたり、離脱する受講者が大きく低減したと考えられる。

さらに、これから講座で学ぶ内容を仕事でどのように活かせるかを解説し正規雇用へのモチベーションを高められるような導入講座を、新たに企画して用意(「【別添資料】実施講座一覧」の「2024年6月18日(火)【導入編】ITビジネスセミナー」)。また、VR/CG、プログラミング、クラウド／AIに関しても、座学中心で基礎の基礎を学ぶ講座を新たに用意し、IT初歩レベルの受講者がキャッチアップできるように留意を行った(「【別添資料2】実施講座一覧」の「2024年6月25日(火)【3DVR CGモデリング】VR/CG基本講座／2024年7月17日(水)【情報・プログラミング】プログラミング基本講座」)。

人気の高かったドローン分野の講座に関しては、民間資格取得に向けても活用できるドローン実習を、インストラクターによる対面の操縦指導を含む現地開催とした。また、現地参加ができない受講者でドローンに関心のある場合は、別途、座学でのドローン知識講座(「【別添資料 2】実施講座一覧」の「2024 年 7 月 24 日(水)【ドローン】ドローン基本講座」)を用意した。

(2)フォローアップについての工夫・改善

【講座形式】

第 1 期は選択科目なしのため全員同じ講座の受講であったが、第 2 期は規定の 120 時間中、必修科目は 34 時間のみで、残りは選択科目とし、受講者の状況に応じて選択講座の変更・調整を促したり、受講者それぞれに合った内容での提案を行った。これは、第 1 期の 3 カ月間 60 時間に比べると長期間で労力も大きい第 2 期において、受講率を上げ、途中離脱者をできるだけ低減させるための工夫である。

【メタバースの活用効果】

第 1 期では、オンラインやメタバースで参加しやすいという声がある反面、フォローアップの面ではコミュニケーションが希薄になった可能性が考えられたため、第 2 期では離脱者対策のため、適宜電話などのリアルなコミュニケーションも活用した。また、事務局から受講者に定期的に連絡を実施し、メタバースでの面談によって受講状況を確認した。このような改善の結果、以下の通り、第 1 期より第 2 期の方が、修了基準である 7 割以上の受講率が大幅に向上しており、受講を促す効果があったことが考えられる。

■7 割以上受講した人の割合

第 1 期:40%(45 名中 18 名)

第 2 期:56%(41 名中 23 名)

2-3 就職支援

2-3-1 支援方法

第 1 期では、積極的に学習に取り組んでいる受講者であっても、学習そのものが目的となっていたりするなど、必ずしも就業へのモチベーションが高いと言えないケースが散見されていた。フォローアップにどれだけ力を入れても、就業に関しては受講者のやる気に起因する側面が大きいのは、難しい点であるが、第 2 期では、なるべくモチベーションを高め、就業への機会を増やすような対応を心掛けた。

一方で、随時の面談の働きかけにもかかわらず、応じる受講者がなかなか増えなかったため、講座の後半にかけては、就業情報説明会(11 月)、就業に関するお悩み相談会(12 月)などの企

画・オンラインでの開催といった新たな取り組みを実施。これらを通して、受講者に就業支援内容の説明や情報共有を実施し、どのような職種を探しているか、こちらからの紹介企業の中に希望はあるかなどを聞き取った上で、就業に向けた活動を継続的に根気よく促した。

(1) 就業支援を目的とした面談の実施

第2期の就業に向けた面談実施状況は以下の通りである。

受講者ID	面談実施日	活動状況	希望就業条件	備考	説得内容
1	9月24日	情報収集中	事務系		就業条件についてまだ定まっていないとのことで、希望の連絡依頼
33	9月24日	情報収集中	建設コンサル系	業務委託で就業	
31	9月25日	情報収集中	検討中		就業希望について検討中とのことで、希望の連絡依頼
24	10月2日	これから活動開始	データアナリスト		データアナリストに興味あるが壁が厚い、それ以外の分野は興味薄いとのことで、就職窓口も活用提案。
25	10月7日	情報収集中	検討中		就業の方向性定まっていない、事務局からの情報は参考になっているとのことで、引き続きの活動を勧めた
42	10月16日	情報収集中	ドローン関連	ドローンスクールのインストラクター 書類選考へ進んだ	ドローンスクールのインストラクター 書類選考へ進んだ
22	10月21日	情報収集中	建設系か別か検討中		現在契約で勤務の会社で正社員目指すか定まっていないとのことで、就職イベントや窓口活用提案。
30	10月23日	情報収集中	CADオペレーターやドローン関連	ドローンスクールの就業条件質問いただき案内実施	ドローンスクールの就業条件質問いただき案内実施
27	11月7日	情報収集中	開発系		福岡の就職希望とのことで、メタバース内の就職イベントへの参加を提案した。SAJも説明、希望の連絡依頼
7	12月3日	キャリアアップに向けて活動中	設計業務		
40	12月9日	活動中	3Dオブジェクトの業務		求人希望調査を実施し、3Dオブジェクト作成で希望勤務地、勤務形態に合う会社を案内
18	12月20日	活動中	3Dモデラーの業務		求人希望調査を実施し、3Dモデラーの業務で希望勤務地、勤務形態に合う会社を案内
42	12月20日	活動中	3Dモデラーの業務		求人希望調査を実施し、3Dモデラーの業務で希望勤務地、勤務形態に合う会社を案内
9	12月26日	SAJの会員企業への応募	開発系	選考へ進む予定	
13	12月26日	活動中	都内で検討中		都内で検討中とのことで、希望の連絡依頼
22	1月9日	キャリアアップに向けて活動中	管理部門で転職し、ITに関わるように変えられたいと検討中	転職サイトで探しているが現状より給与水準が高いものが見当たらない	

講座終盤の9月から1月にかけて、全41名中13名に対し、1回ずつの面談を実施した。希望の職種・業界についての聞き取りと併せて、就業に取り組むよう説得を行っているが、メールの返信がなく電話に出ない受講者が多いなど、こちらからの働きかけに対して応じるケースが少ないことから、学習への意欲と比較して、就業へのモチベーションが低いことが察せられる。

(2) ソフトウェア協会(SAJ)を通じた企業検索と紹介

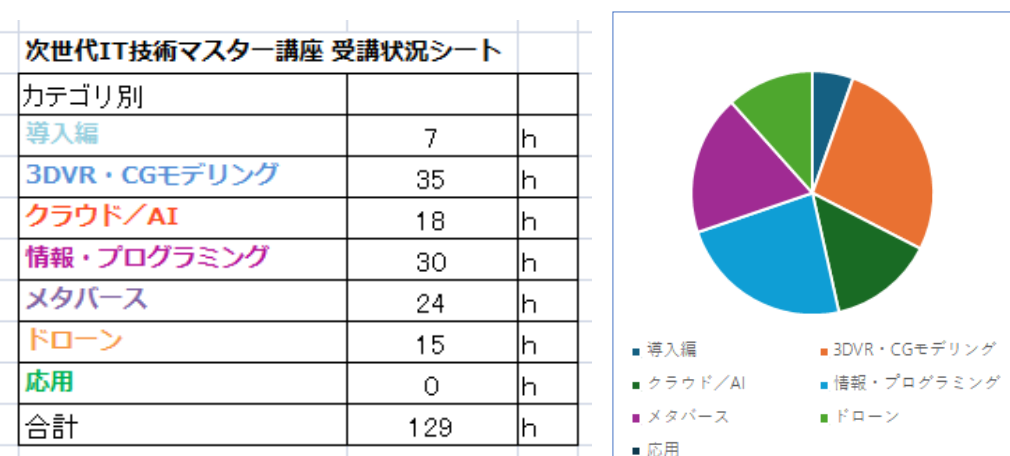
検討委員会参加メンバーであり、当社も会員として所属しているソフトウェア協会(SAJ)の会員企業保有技術サービス検索メニューを通して、企業へ個別に人材紹介実施を行った。受講者にプロフィール記入用のシート配布を行い、関係団体・組織に人材として求人応募に向けた紹介を実施

した。また、関係団体・組織(ソフトウェア協会)を通して、「次世代 IT 技術マスター講座 修了生のご紹介」と題した、第 1 期修了生の人材紹介を会員企業に向けて実施するための DM メールを実施した。

■「次世代 IT 技術マスター講座」修了生のご紹介(SAJ 情報掲載ページ)

https://coco.cococica.com/saj/index.asp?page_no=15&svc_id=3&svcinfor_no=20

また、以下の図のように、各受講者が本講座でどのような分野を重点的に履修しているか、関心の強い分野や得意な分野がわかるような一覧とグラフを作成して傾向を把握できるようにし、プロフィールシートへの記載の際に、アピールとなるように工夫した。



上記と並行して、受講者に対しての求人希望調査を実施し、3D オブジェクト作成や 3D モデラーの業務といった具体的な職種の希望があった 3 名の受講者に対して面談を行った(P.23「面談実施状況」の表内に記載)。その際、SAJ を通した 140 社の求人情報を確認して、受講者の希望(勤務地や就業形態)に合う案件の提案を行い、希望企業について調整を行った。

(3)メタバースを通した就業情報の案内

受講者向けのメタバースに、以下の通り、スキルアップ・就業のフォローアップを目的とした情報を掲示し、案内を行った。

■第 2 回 IT デジタル就職展

日時:2024 年 6 月 15 日(金)・16 日(土) <https://digital-career-fair.com/>

■第 3 回 IT デジタル就職展

日時:2025 年 1 月 24 日(金)・25 日(土) <https://digital-career-fair.com/>

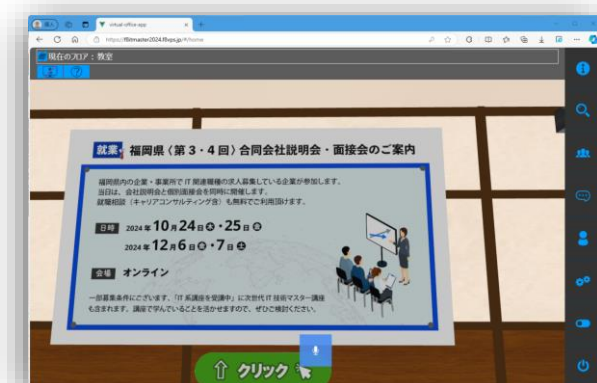


また、地方在住の受講者についても就業に関する情報を案内し、利用を促す事を目的として、受講者専用 HP およびメタバースに各種情報を掲載した。

■福岡県＜第1～4回＞合同会社説明会・面接会のご案内

福岡県内の企業・事業所で IT 関連職種の求人募集している企業が参加し、就職相談(キャリアコンサルティング含)の無料利用も可能な、会社説明会／個別面接会を案内。

<https://dx-fukuoka.jp/kyushokusha/jobfair/>



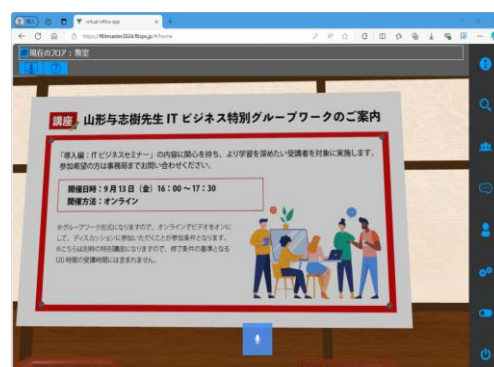
■各地方就職相談窓口のご案内

各都道府県で就職情報の相談ができる窓口を調査し、一覧化して、受講者に案内。就業活動に利用しやすいよう、電話・オンライン・メールなどの問合せ先も明記した。

<https://www.forum8.co.jp/forum8/itmaster2-job.htm>

(4) 就業に向けた特別講座の実施

2024 年 6 月に実施した山形与志樹氏(慶應義塾大学)の「導入編:IT ビジネスセミナー」においては、環境・サステナブルなどのテーマを中心とし、最新技術による社会課題解決といった内容に対して、複数の受講者から高い関心が集まった。これについて講師の山形氏からは、特に興味・関心の大きい受講者向けに、一方的な座学ではなくグループワーク形式で、より学習を深める講座を後日実施することについて提案があり、大学院でのリサーチアシスタントなどの就業につながるスキルアップも図ることのできる内容として、カリキュラムとは別の特別講座として企画された。最新 IT ビジネスへの学習意欲や理解度、就業への意識が高い受講者を中心に参加を募った。



■山形与志樹氏(慶應義塾大学)IT ビジネス特別グループワーク

日時: 9 月 13 日(金) 16:00~17:30 開催方法: オンライン

(5) メタバースを通じた業務委託募集

9 月 13 日(金)に実施した山形与志樹氏(慶應義塾大学)の特別講座「IT ビジネス特別グループワーク」に参加の受講者に業務委託の募集をメタバース内のコミュニケーションスペースを通して実施し、3 名から申込があった中、講座の受講状況やテストの得点などから評価し、2 名を採用し、2024 年 11 月より業務をスタートした。

■業務委託募集内容

内容: 大学研究室における内閣府プロジェクト SIP のリサーチャーおよび研究アシスタント

期間: 2024 年 12 月~2025 年 6 月(半年間)、週 1 日程度の稼働

勤務場所: フォーラムエイト東京本社、日本橋リビングラボ/在宅

業務概要: 日本橋のビルにおけるエネルギーマネージメントの取り組みを、収集したデータの VR シミュレーションやヒアリングした意見を元に実施

(6) メタバースを通したドローンスクールインストラクタ募集

ドローン講習を受講しスキルを身に付けた受講者に対して、ドローンスクールインストラクタの募集を、メタバース内のコミュニケーションスペースを通して実施。2 名(三重、千葉での受講者)より問い合わせがあり、うち 1 名については、採用プロセスが進んでいる。



(7) メタバースを通した就業に有利な資格取得の紹介

IT 分野で求められるスキルの評価基準としても活用されている「CG-ARTS 検定」を、合格により就業にも有利になる資格検定として、メタバース内のコミュニケーションスペースで紹介。「次世代 IT 技術マスター」で学んだ CG・VR のモデリングやプログラミングのスキルをさらに向上させたい受講者に受験をすすめた。

■「CG クリエイター検定」／「CG エンジニア検定」／「Web デザイナー検定」

<https://www.cgarts.or.jp/v1/kentei/index.html>

(8) 就業活動に関する説明会の実施

前述のような支援や面談等の実施を経たうえで、受講者地震の就業への意識がなかなか上がらないことから、講座終了後 3 ヶ月での就業決定を促すため、就業の窓口や手段等の紹介・説明の場を設けた。

受講した講座で身につけた知識やスキルを、エンジニア、プログラマー、IT コンサルタント、Web デザイナーなど、IT 分野のどのような職業で生かせるか、各職種の仕事内容と併せて説明した。また、出口として SAJ(ソフトウェア協会、会員企業約 600 社)を紹介し、IT の様々なカテゴリごとにそれらの技術を保有する企業の一覧が検索できるページを案内して、同協会を通して関心のある企業にアプローチ可能であることなどを説明し、就業への活用を促した。

■就業説明会

日時:11 月 7 日(木)14:00-14:30 開催方法:オンライン

(9) メタバースによる「就業に関するお悩み事相談会」の実施

オンライン講座のためリアル会場で対面の会話を交わす機会がないことを考慮して、メタバースを活用して受講者同士で気軽にコミュニケーションを取れる場を設定した。受講者から参加者希望者を募り、メタバース空間に集まって、就職活動を行う上での悩みごと等をお互いに話し、今後

の活動の参考として活用してもらった。3 名が参加し、お互いの活動状況や企業求人調べ方などといった情報共有を行うことができた。

■就業に関するお悩み事相談会

日時:12月20日(金)16:00-17:00 開催方法:メタバース内のコミュニケーションスペース

2-3-2 支援結果

第1期修了者の就業5名(地方公共団体1名、ホテル1名、学校関連3名)に対して、第2期では選考途中も含み7名の就業者となっている。このうち、大学研究室におけるリサーチャー・研究アシスタントとして2名が12月より就業をスタートしており、これは、就業に向けた特別講座として企画・実施した「ITビジネス特別グループワーク」(P.25に記載)への参加者が、講座で習得した知識・スキルを活かした結果、就業に結び付いたものである。

また、ドローンスクールインストラクタの募集を行った結果、2名から応募があり、実際に1名が選考段階へと進んだ他、1名が12月より建設会社の企業実習へ参加している。

連絡日	就業先名	雇用形態	業務内容	年齢	受講者ID
2024/10/16	ドローンスクール	選考プロセス途中	ドローンスクールインストラクタ	25	42
2024/11/28	建設会社	企業実習(2024年12月～)		61	36
2024/12/1	フォーラムエイト	業務委託	大学研究室におけるリサーチャー・研究アシスタント	54	33
2024/12/1	フォーラムエイト	業務委託	大学研究室におけるリサーチャー・研究アシスタント	49	35
2024/12/24	技術コンサルタント企業	パートタイム就業	事務、アシスタント	49	1
2024/12/25	IT関連企業	正社員		38	19
2025/1/1	試験室	非正社員	微生物等食品分析検査	45	14
2025/3/17	不明	非正社員	不明	52	34

IT業界では、キャリアパスとして業務委託での就労者も多く、本講座の受講者については、運用保守やテスト業務のような単体スキルの業務を請け負う形も、スキルを積み重ねて正社員就業を目指すステップとしてとらえ、就業目標の数値に含めている。

講座終盤の9月から1月にかけて、全41名中16名に対し、事務局による面談を実施し、希望の職種・業界についての聞き取りと併せて、就業に取り組むよう説得を行ったが、メールへの返信がない、電話に出ないといったように、こちらからの働きかけに対して応じる受講者が少ないことから、学習意欲はあっても、就業そのもののモチベーションが低い傾向がうかがえた。

2-3-3 工夫点

(1)メタバースの有効活用

「2-3-1 支援方法」で詳細を記載している通り、メタバース内のコミュニケーションスペースを活用して就業支援に関連する告知内容を充実させ、サポートの強化を行った。第1期では一般

的な就職イベントのみであった情報を、第 2 期では、各地方の就職紹介窓口や、就職に有利な資格案内、具体的な求人や業務委託の募集案内など、様々な内容の追加を行った。

このように就業支援のためにメタバースを活用したことについて、受講者に意見・感想をヒアリングしたところ、以下のような回答が得られた。

・メタバース事務局の担当者に直接質問ができる時間帯は都合が悪かったため質問等には利用できなかったが、コミュニケーションスペースに掲示されている就職情報を確認し参考にした。

・相手と話していて自分のカメラの状況が見えない場合は、映っているのかどうか気になることもあったが、アバターによるメタバースは使いやすく効果的だったと思った。

メタバースに複数回ログインして何度か利用したという受講者が複数見られたところから、単に就職に有益な情報を告知するスペースというだけでなく、受講者がメタバースに入って確認することによる自主的な就職活動の意識づけにつながっているという効果もうかがえた。

(2)面談実施の積極的な働きかけ

前述のようなメタバースでの紹介内容をきっかけとして面談を働きかけることで、受講者の就業希望内容の把握や、就職活動の促進を図った。これにより、特に地方在住で都市圏の大型就職イベントへの参加が難しい受講者に対しては、オンラインで参加できる就職イベントや、各居住地の就職窓口の活用提案にもつながった。

第3章 訓練実施に係る費用

3-1 募集・就職支援

募集および就職支援の活動に関しては、事務局を設置し、これを中心として全体的な受講者への対応として行っている。これらに要した経費は合計で 1,085,340 円となった。

3-2 訓練

訓練パッケージの試行に要した経費に関しては、合計で 6,098,178 円となった。内訳は以下の通りである。

人件費	: 2,181,405 円
講師謝礼金	: 570,000 円
教材費	: 92,500 円
検定費	: 1,549,078 円
教材発送費	: 25,195 円
ドローン講習費	: 1,680,000 円

第4章 試行の総評

4-1 目標達成状況

(1) 仕上がり像について

本講座の計画における受講者の仕上がり像は、「次世代の中心技術の知識習得、コミュニケーションスキル獲得、正規雇用・社会参加への意欲向上」としている。

【次世代の中心技術の知識習得】

本講座は、IT 技術の基本を押さえた必修講座＋幅広い選択講座で構成されており、IT 分野のバラエティに富んだ課題を学習し知識を習得できるという点では有意義なプログラムであったと考えられる。そのため、修了要件として設定していた 120 時間中 84 時間以上を履修した 23 名／41 名および、学習内容の理解度を図る修了認定試験で 8 割以上の得点を獲得した 17 名／41 名については、この仕上がり像にかなり近づけたのではないかといえる。

【コミュニケーションスキル獲得】

本講座は 40 代を中心に比較的高齢の受講者も多く、普段触れる機会の少ないメタバースなどのツールを通して、最新技術・手法を活用したコミュニケーションスキルの向上につながっていると考えられる。

【正規雇用・社会参加への意欲向上】

修了要件の 120 時間を超える講座を、選択制で履修した受講者も多く、そのような意味では、新しい分野への学習への意欲やチャレンジ精神が感じられた。一方で、このような学習意欲が就業意欲に直結するとは限らず、一部を除いて多くの受講者が就業活動への参加には消極的であった。講座での学習やコミュニケーションが社会参加への意欲へとつながる可能性はあるが、就業という点では、当初の仕上がり像への到達度が十分ではないといえる。

(2) 受講者数について

本講座の計画では受講者数を目標 30 名として想定し、途中の離脱者などを考慮した上で、最終的に 41 名が参加した。参加者数ではこの通り目標を達成しているが、修了基準（規定の 120 時間中 71%の受講）をクリアした受講者は最終的に 28 名であった。リアルタイムで受講できなかった方にはオンデマンドでの受講を促し、一人でも多く修了者を増やすことを目指して働きかけた結果、修了者数は定員 30 名に対してあと一步となったものの、概ね目標達成に近づけることができた。

(3)就職率について

当初の計画では、以下の通り設定していた。

・正規雇用としての目標：70%（ただし、業務委託として個人で仕事を請けることも、正規雇用へのステップとして、目標数値に含める）

「2-3-2 支援結果」にある通り、41 名中 6 名が就業し、うち正規雇用は 1 名、業務委託が 2 名と、目標には大きく及ばない結果となった。受講者の学習意欲の高さが、必ずしも就業意欲に直結していないという傾向から生じた結果であると考えるが、課題と改善策については、次項にて記載する。

4-2 試行結果から見る今後の課題と改善策

(1)効果を得られた施策とその要因

【メタバース】

「2-3-3」および「2-2-3」に記載しているように、活用場面を増やすことで、遠隔でのコミュニケーションの内容をより充実・強化し、学習内容の理解を深めると同時に、就業支援においても一定の効果があつたと考えられる。

【選択制講座】

バラエティに富んだ課題を、受講者の関心や都合に合わせて学習できる体制にしたことで、修了者を増やすことにつながった。また、受講者の意欲やチャレンジが感じられる結果ともなった。

【ドローン実習】

本講座の中で唯一、現地での対面による実施であつたが、41 名中 28 名の参加があり、興味・関心の大きさが実感された。自主的に受講するには相当の費用もかかってくるため、消極的になる場合も多いと考えられるが、この講座での受講をきっかけに、ドローンの資格取得やインストラクターへの応募に関心を持った受講者がいたことはポジティブな側面である。

(2)途中離脱者・未修了者について

【講座辞退者】

当初の 43 名の申込者から、2 名の辞退者が発生しており、いずれも、オリエンテーションでの詳しい説明の後、学習のための時間的な余裕がないことを理由として、早期に離脱している。これについては、オリエンテーション的な説明会を、講座スタート前のより早期に実施して、ミスマッチを防止できれば問題なかったと考える。

【講座の未修了者】

41 名中 13 名が終了要件の 84 時間履修に到達せず、未修了となっている。未修了者の属性は、平均年齢 46 歳(男性 4 名、女性 9 名)で、特に傾向は見出せないが、全般的に、事務局からのフォローの連絡に応答がない場合が多く、オンライン開催でコミュニケーションがどうしても希薄となってしまう部分をどのように強化するかが課題であると考えられる。ひとりひとりをフォローすることで最後まで伴走することは難しいが、検討委員会では、受講者のモチベーション維持のために、オンラインであってもコミュニティを作ることのできる工夫が必要であるとの意見が上がった。

【就業辞退者】

就業への働きかけの中で、2 名の受講者より就業の意志がないとの回答があった。理由としては以下のとおり、家庭の事情や予期せぬ要因となっている。

受講者 1: 妊娠のため当面の就職が難しい(講座は最後まで受講したい)

受講者 2: 介護の必要性が発生し、それを前提とした在宅ワークのためには、この講座で学んでいるような IT 技術を十分に習得する時間の余裕がない(IT や DX に関して理解のないまま受講を始めてしまった)。そのため、IT 以外の即戦力となる技術を身に付ける方向に進みたい。

(3)就業対策における課題・改善策

募集時には正規雇用への意志を確認の上受講者を受け入れたが、実際には、強いモチベーションが見受けられない人の方が多い。例えば、一般的な社会人学生の場合は高額な学費を伴うため意欲が高いが、本講座のような無償の講習の場合、どうしてもモチベーションの維持が難しい面があることも考えられる。修了到達、就業促進に向けた施策や仕組みとして、以下のような改善策を挙げたい。

・今回、修了要件である 120 時間全部を技術学習として設定していたが、就業に向けた面談を必修単位として設定する、就職説明会への参加レポートの提出を必修講座に組み込むなどを行う

・事務局から強く呼びかけたにもかかわらず、面談、就業説明会、悩み相談会などへの参加者が少なかった。そのため、メタバースを活用してこれらに参加する講座を学習時間として組み込んで必修単位とし、その課題として「メタバースに入室してコメントを 10 件残す」などを設定することで、就業への意識づけ自体を強化する仕掛けとする

第5章 普及策の検討

本講座は、「受講者の 70%以上の正規雇用」という最終目標としては、意図した結果にはならなかったが、就業に結び付かない要因の把握や改善のための対策を模索する点では、含蓄の多い試行内容となった。また、メタバースの技術を教育訓練や就業支援により有効活用するための課題が明らかになったことが、今後、各種業界における訓練団体にとっても参考になると考えられる。

当社としては、本講座の経験や課題もふまえて、開発した訓練パッケージを更新しながら、今後も自社のセミナーや教材などを発展させていきたいと考えている。

同時に、教育訓練のプラットフォームとしてのメタバースの機能を拡張し、より効果的な学習や、受講者フォローのためのコミュニケーションを実現していく。「4-2 (3)就業対策における課題・改善策」でも上げたように、メタバースに入室して講義に参加し、発言やコメントなどのコミュニケーションをとること自体がポイントとして加算され履修単位に組み込まれるような仕組みを用意するなど、受講者の意識やスキル向上につながるような工夫・提案を視野に入れていきたい。

以上